

「やらされ探究」から「マイ探究」へ!

生徒が主体的に取り組む学習であるはずの探究学習に「やらされ感」を抱く生徒、教師は少なくない。探究学習を生徒、教師が自分事化し、よりよいものとするためにはどうすればよいか、事例を通じて考える。

Turning Point

外部支援の活用と
教師の専門や関心に
基づくテーマの設定

生徒だけでなく、教師も
自身の専門や関心を基にテーマを設定し、
学校全体で探究学習を実践
北海道・私立旭川明成高校

教師の 転換点

- 大学の探究学習支援プログラムを活用し、教師に指導モデルを提示
- 教師が自身の専門や関心を基にゼミのテーマやプロジェクトを設定

3年次のゼミのテーマを、 教師が自身の専門や関心を基に設定

北海道・私立旭川明成高校は2022年度、探究学習のカリキュラムをキャリア教育を中心としたものから、生徒個々の関心を基に設定した課題に取り組むものに改訂した。その際、生徒の主体性を引き出すとともに、教師も当事者意識を持って探究学習の支援や指導にあたることのできる体制の構築に努めた。

「本校の生徒は素直で柔軟性が高いため、学校が環境を整備すれば主体的に探究学習に取り組むことは想定できました。一方、教師は探究学習の指導経験が少ないため、新たな指導内容を負担に感じ、当事者意識が持ちにくいと予

想されました」探究創造部部长・片岡昭彦先生

教師の負担感の軽減と併せて、教師が探究学習の指導や支援の知見を得られるよう、外部の支援を活用することにした。具体的には、1年次は大学の支援により、課題発見や情報収集といった探究学習のサイクルを生徒が学ぶプログラムを、2年次は企業の支援により、生徒が自己理解や将来について考えるプログラムを実施するといった内容だ。

「各プログラムは大学や企業から派遣される講師が主導します。教師は講師の授業の進め方や生徒への接し方をその目で見て学ぶことで、自身の支援や指導のスキルを向上させることができるのではないかと考えました」(進路指導部部长・佐藤卓也先生)



探究創造部部长
片岡昭彦
かたおか・あきひこ
同校に赴任して27年目。理科(化学、地学)。



進路指導部部长
佐藤卓也
さとう・たくや
同校に赴任して11年目。商業・情報科。

学校概要

設立 1947(昭和22)年 形態 全日制/総合学科/共学 生徒数 1学年約210人
2024年度卒業生進路実績 国立大は、小樽商科大、北見工業大、北海道教育大、室蘭工業大、旭川市立大、釧路公立大、名寄市立大、都留文科大などに24人が合格。私立大は、北海学園大、桜美林大、國學院大、日本体育大、武蔵大、立教大、神奈川大、関西大などに延べ34人が合格。短大・専門学校進学56人。就職26人。

3年次に実施するゼミは、担当となる学年団の教師が自身の専門や関心を基にテーマを設定し、生徒はその中から取り組みたいゼミを選ぶ形にした(P.2図1)。



図1 2025年度3年次のゼミのテーマ

- ゼミのテーマ (担当教師の担当教科)
- お菓子の科学 (家庭科)
- かるた de Asahikawa (英語科)
- サイエンスフロンティア (理科)
- プレゼンの達人 (国語科)
- アドミッション・ポリシーと志望理由 (英語科)
- 地域探究ゼミ (商業科・情報科)
- 世界の国旗探究 (地理歴史・公民科)
- 体を動かそう! (保健体育科)
- 大人っぽく文字を書くコツ講座 (国語科)
- 第一志望は譲れない (理科)

●活動例 地域探究ゼミ (全16コマ)

移住者の増加や経済の活性化などで全国的に注目されている近隣の自治体の現状を調査し、その結果を基に自分の住む地域の活性化案を考える。他の自治体を訪れてフィールドワークを行うほか、RESAS (地域経済分析システム) の活用法を学び、エビデンスに基づく提案ができるようにする。地域の活性化案はポスターにまとめ、ゼミのポスターセッションで発表する。

図2 「未来タイム」の概要

- 実施内容 毎週木曜日の午後、生徒・教師が自由に設定したプロジェクトに取り組む課外活動。2~3か月を1クールとし、1年間で4クールを設定。1クールでの実施から通年での実施まで、実施期間は任意。2025年度は全生徒の約6割が参加。
- 活動の流れ 4月に行う全生徒対象のオリエンテーションで、各プロジェクトの内容を説明。4月末までに、参加したいプロジェクトに申し込む。12月は、全生徒参加の振り返りの会で、生徒が設定したプロジェクトを中心に活動結果を発表。
- 教師が設定したプロジェクト例 教師が自身の関心を基に立ち上げたプロジェクト (コーヒーのおいしさを探究、旭川のまちづくりに貢献しよう、物流の探究、心理学について学ぼうなど) や、大学入試・資格取得の対策講座 (国語、数学、英語、小論文、簿記など)、「全国菓子大博覧会」「ユネスコ会議」といった、地域で開催されるイベントへの参加、緑道の整備などのボランティア活動。
- 生徒が設定したプロジェクト例 ロス食材を活用した食事を提供する子ども食堂の運営や、地域の高齢者と交流を図ることを目的に地区センターで軽スポーツを楽しむ運動会などの実施。生徒は自身の関心を基にプロジェクトを立ち上げ、教師の支援を受けながら活動した。

※図1・2ともに学校資料を基に編集部で作成。

お勧めの分掌

管理職

教務担当

進路担当

担任

探究創造部が教師・生徒と外部をつなぎ、活動の深化を支援

「ゼミのテーマが教師自身の得意分野であれば、より意欲的、かつ的確に支援や指導ができる」と考えました。教師間でテーマの調整はせず、進路選択につながるテーマにすることを共有しました。それは、生徒が進路意識を高める3年次だからこそ意義ある方針であり、生徒が探究学習を通じて希望進路の実現に向かうことで、教師が自身の設定したテーマに手応えを感じられるようになりました (佐藤先生)。

たテーマですから、参加している教師は生徒の成長を願って取り組んでいます。そして、学びを深める生徒を身近で見ること、教師は探究学習の意義を実感し、それが支援や指導への意欲の向上につながっています (片岡先生)。

生徒も自身の関心に基づいて自由に探究できるため、活発に活動し、特に子ども食堂や高齢者との交流といった、地域と連携したプロジェクトが盛んだ。そうした外部との連携を支えているのが探究創造部であり、片岡先生は進路指導部の在籍時に築いた地域の青年会議所や中小企業家同友会などの人脈を生かして、教師や生徒の相談内容に合う企業や団体とのマッチングを行っている。

校内研修では外部講師を毎年招き、探究学習に対する講評と助言を得るほか、大学入試における探究学習の重要性も共有。25年3月には、東京と広島の私立高校と3校合同で、探究学習の支援と指導をテーマにオンライン研修を実施した (関連記事はこちら!) 参照。

「グループ討論を通じて、他校も本校と同様の課題を抱えていることを知りました。また、他校の実践から刺激を受けるとともに、本校の取り組みを客観的に振り返る機会にもなりました。探究学習の成果をアピールして総合格選抜で合格する生徒が増えており、教師の指導意欲は高まっています。今後も合同研修の機会を設けるなどして、探究学習のより一層の充実を目指していきます。」 (佐藤先生)

Web VIEWnext ONLINE

関連記事はこちら!

3校合同のオンライン研修に関する記事は、教育情報総合サイト『VIEW next ONLINE』でご覧いただけます。次の関連記事のタイトルをクリックしてアクセスしてください。▶次代を担う全国の若手教師が集まり、語り合う「若手教師・教育創造 MTG」第2期・2024年度・第4回オンラインミーティング・レポート